

平成 27 年第 1 回国際シンポジウム

「恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性

—核廃絶に向けた 70 年の軌跡と今後—

広島大学平和科学研究センターは、平成 27 年 7 月 28 日、平成 27 年第 1 回国際シンポジウム「恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性—核廃絶に向けた 70 年の軌跡と今後」を開催しました。

基調講演では、タイ国元副首相の Surakiart Sathirathai 氏をお招きし、「世界平和への諸課題と広島の役割」と題してお話頂きました。



開会式での越智学長の挨拶



タイ国元副首相の Surakiart Sathirathai 氏による基調講演

シンポジウムはⅡ部構成で、第Ⅰ部では「核廃絶に向けた努力の軌跡と今後」を共通のテーマとして、OSCE ウクライナ特別監視団代表の Ertuğrul Apakan 大使、Japan World Trend 代表で元在ウズベキスタン・タジキスタン大使の河東哲夫氏、外務省軍縮不拡散・科学部審議官の中村吉利氏、平和科学研究センター准教授の友次晋介氏が、活発な議論を行いました。

第Ⅱ部では、「市民社会の可能性とグローバルな平和への展望」を共通テーマとして、Japan Society 理事長の櫻井本篤氏、昭和女子大学学長の坂東眞理子氏、スティムソン・センター副所長の Brian Finlay 氏、東洋大学教授の薬師寺克行氏が議論しました。



I 部の討論で意見を述べる Apakan 大使



II 部の討論の様子



集合写真



閉会式で挨拶をする西田センター長

参加者からは「テレビのニュースやメディアからでは得られない国際社会の第一線で活躍している登壇者の話が聞けて有意義であった」、「核軍縮の進展には国際平和・紛争防止が重要であり、それに対する市民社会の貢献は大きいと感じた」などの感想が寄せられました。広島大学平和科学センターは、今後もシンポジウムの開催等を通じて、平和科学に関する研究成果の還元、情報の提供を積極的に行い、広島から世界に平和を発信していきます。

※本シンポジウムの一部の経費は、広島大学の研究力強化促進事業からの補助金を使用しました。

【問い合わせ先】

広島大学平和科学研究センター

heiwa*hiroshima-u.ac.jp (*は半角@に変換の上、送信してください)